

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 16 日

1. 職名・氏名 教授・水田 尚志

2. 学位 学位 博士（農学）、専門分野 水産学、授与機関 京都大学、授与年 平成 5 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
化学Ⅱ（2 単位 毎年開講） 2 年生 （2025 年度）
担当コマ数：15 コマ

②内容・ねらい

生物体は多種多様な化学物質から成り立っているため、海洋生物資源学の分野における数々の事象を説明するためには化学的知識が必須となる。本講義では化学反応に関わる基礎を習得した後、各種分析法の原理について学ぶ。さらに生化学の理解に必要な不可欠な各種有機化合物の構造や特性などについて理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

今年度は、e-ラーニングシステム（Google Classroom）を用いて講義資料の配信を行いつつ、全 15 回についてすべて対面授業で行った。

本学科では学生間の「化学」の学力差が大きい。化学の素養がほとんどない学生に配慮して次のような工夫を行った。

（1）基礎化学的内容の重視

基礎化学的内容および基礎分析化学的な内容を前半に行い、後半は主に基礎的な有機化学の内容をとり入れた。特に基礎化学的な部分の説明をきめ細かく行うことによって、化学の学力が低い学生ができるだけスムーズに分析化学的、あるいは有機化学的な内容へと入っていけるように配慮した。

（2）授業形態における工夫

授業形態としては、**授業内容を簡潔にまとめたレジメ（空欄補充形式）**を中心に進めたが、適宜**図表を取りまとめたプリント**を用いて図解することにより、分析法の原理等を理解しやすいように配慮した。レジメおよびプリントはいずれも予習用の教材として授業開始前の段階で e-ラーニングシステム（Google Classroom）に掲載したが、さらにレジメについてはプリントアウトした紙面を授業時に受講生に配布した。授業時にはプロジェクターにレジメおよびプリントの PDF を投影し、**ペンタブレットを用いてファイル上に直接記入しながら解説した**（記入した PDF ファイルは後日、「記入済ファイル」として Google Classroom に追加掲載することで、授業の欠席者にも配慮した）。また、講義の予習・復習のためのその他コンテンツ（過去の期末試験問題・解答例、中間レポートや期末試験の問題・解答例など）や講義の補足的な内容など授業の理解に役立つ情報を Google Classroom に掲載した。

（3）到達度の自己確認に関する工夫

各章末に「**到達度の確認**」という 1 問 1 答形式の問題あるいは計算練習を内容とする**パワーポイントファイルを作成し、授業中に受講生に答えさせることで理解を促した**。これは、講義中に説明した内容のみならず、講義では説明しなかった発展的、補足的な内容も織り交ぜることによって、反復による確認と発展的内容の修得をさせようとするものである。この「到達度の確認」を取り入れることによって学生とのコミュニケーションが維持され、意欲的に学習に取り組む学生が大幅に増えたものと実感している。さらに**練習問題（紙面を授業時に配布し、その場で回答、答え合わせをさせる形式の練習）**および「**中間レポート**」をそれぞれ講義期間中に 2 回程度実施し、授業内容の確認を行わせた。

(4) 「化学実験」との連携

同時期に開講される「化学実験」と関連が深い2つの章(「物質と濃度」および「分析の基礎」)を「第1部」として講義の冒頭に配置することによって、化学実験の理解をより深められるよう配慮した。特に、「中和滴定」や「食品中の酸の定量」など計算を必要とする実験項目において、受講生の抵抗感が著しく軽減されたものと考ええる。また、「化学実験」の項でも述べるとおり、「化学実験」の予習(予備計算)を本講義の中間レポート(または練習問題)として課すことで、化学を苦手とする学生でも抵抗なく実験に取り掛かることができたものと考ええる。続く「第2部」では、数値計算やデータ処理など化学実験でのレポート作成に関連が深い2つの章(「単位」および「数値の取り扱い」)を配置し、レポートの作成を円滑に進めることができるように配慮した。このように「化学Ⅱ」の講義に、「化学実験」の理解をサポートする機能を意識的に持たせることによって両科目の理解度を一層上げることにつながっている。

①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等
海と暮らし(2単位 毎年開講) 1年生 (2025年度)
担当コマ数:1コマ

②内容・ねらい(自由記述)

「海と暮らし」において「福井の魚」と題する講義1回(2026年1月16日開催)を担当したが、この中では、越前ガニをはじめ、福井県にて漁獲される重要な魚介類を紹介するとともに、いくつかの魚種についてタンパク質(主にコラーゲン)資源としての利用の実態や可能性について解説した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)

今年度は昨年度と同様、Zoomを用いて講義を進めたが、図や写真を多用することによって福井で漁獲される魚の特性をイメージしやすいように配慮した。また、本講義では**水産加工残滓や外来生物など社会的にも関心の深いテーマに結び付ける**とともに、日々の食生活における実体験や雑学的な要素を取り入れることによって抵抗感なく理解ができるよう工夫した。

①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等
食品化学(2単位 毎年開講) 2年生 (2025年度)
担当コマ数:15コマ

②内容・ねらい(自由記述)

食品のもつ機能(栄養性、嗜好性、安全性、生体調節など)を学ぶためには、食品を構成する個々の成分がどのような特性を持つかが必要である。本講義では、魚介類の可食部(主として筋肉)を構成する主要成分(タンパク質、脂質、エキス成分など)がどこに分布し、どのような化学的特徴をもつのかを理解することを目的としている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)

本講義では、基本的に対面授業で行ったが、対面授業ができない場合については Google Classroom に動画を掲載するオンデマンド授業とした(今年度は11月26日分の授業について休講とし、後日オンデマンド補講を行った)。前期の化学Ⅱと同様、本講義においても化学物質や化学反応など化学的な内容が多く含まれ、化学の素養が少ない学生に配慮する必要があるため、次のような工夫を行っている。

(1) 授業形態における工夫

化学Ⅱの場合と同様に、**授業内容を簡潔にまとめたレジメ(空欄補充形式)**を中心に進め、**適宜図表を取りまとめたプリント**を用いて図解することにより、魚介類の組織構造や構成成分の特性、食品中の化学物質やそれらの反応などを理解しやすいように配慮した。レジメおよびプリントはいずれも予習用の教材として授業開始前の段階で Google Classroom に掲載したが、さらにレジメについてはプリントアウトした紙面を授業時に受講生に配布した。授業時にはプロジェクターにレジメおよびプリントの PDF を投影し、**ペンタブレットを用いてファイル上に直接記入しながら解説した**(記入した PDF ファイルは後日、「記入済ファイル」として Google

Classroomに追加掲載することで、授業の欠席者にも配慮した)。また、講義の予習・復習のためのその他コンテンツ(過去の期末試験問題・解答例、中間レポートや期末試験の問題・解答例など)や講義の補足的な内容など授業の理解に役立つ情報をGoogle Classroomに掲載した(毎年受講生によるこれらの積極的な活用が見受けられる。)

(2) 到達度の自己確認に関する工夫

レポート形式の中間試験を1~2回程度実施し、到達度の自己確認を行わせている。課題内容を記載した紙面を授業時に出席者に配布するとともに、Google Classroom上にも掲載した。本レポートは授業内容の自己確認を目的とするものであるため、紙面上に自筆で記入させ、提出させる形式をとっている。

(3) 「食品化学実験」との連携

同時期に「一般成分分析」を主な内容とする「食品化学実験」が開講されるが、本講義における「第3章 一般成分」を「食品化学実験」の開講前に行うことで、同実験の理解が深まるように配慮している。具体的には一般成分(水分、粗タンパク質、脂質、灰分および炭水化物)の分析原理をきめ細かく解説するとともに、魚介類のそれぞれのグループで一般成分組成上どのような特徴があるかを紹介している。

①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

化学実験(1単位 毎年開講) 2年生 (2025年度)

担当コマ数: 8コマ

②内容・ねらい(自由記述)

海洋生物資源学科の専門領域では海洋生物資源の生産・利用・流通など多様な領域を扱うが、実験手法として化学分析法を用いる場合が多い。本実験では、実験室で安全に実験を行うための知識を修得するとともに、海洋生物資源学の分野で重要となる基礎的な化学分析の操作法と原理を理解することを目的とする。担当する主な部分は、第1部(「ホールピペットによる水の測容と精度・確度検定」、「硫酸銅(II)水和物中の結晶水の定量」および「試薬溶液の調製と濃度検定」である。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)

(1) 1班あたりの人数を4~5人として、班単位で実験の操作および実験データの解析を行うように指導している。その中で班員間のコミュニケーションを深めさせ、特定の班員に偏らずすべての班員が満遍なく実験を行えるように配慮している。また、実験開始前には必ず班単位で打ち合わせを行わせ、その記録を「化学実験打ち合わせ記録」として提出させることで、班内でのコミュニケーションを促すとともに、チームワークの重要性を認識させている。

(2) eラーニングシステム(Google Classroom)の活用により、学生が講義資料のダウンロードをいつでも行えるよう配慮している。

(3) 本実験の受講者は「化学Ⅱ」の受講者とほぼ一致しているため、従前からこれらの科目の連携を図ることによって両科目の理解度をさらに深めるよう努めている。具体的には、「化学実験」の予習段階で必要な準備計算を「化学Ⅱ」での中間レポートまたは練習問題として課した。その結果、計算を苦手とする受講生も抵抗無く実験に取り掛かれるようになった。さらに、「化学実験」にて行った実体験が「化学Ⅱ」にて学んだ理論の理解にも大いに役立ったと考える。また、「化学Ⅱ」における章の配置に工夫を加えたこと(「化学実験」に関連の深い章を冒頭に配置したこと)も「化学実験」の理解をさらに深めたと考える。

①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

基礎演習(1単位 毎年開講) 3年生 (2025年度)

担当コマ数: 15コマ

②内容・ねらい(自由記述)

本演習科目は、研究室分属をした3年生について研究分野に関連する文献を講読させ、討論することによって当該研究分野に関する理解を深めさせようとするものである。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)

(1) 基本的には各受講生(3年次生)自身に文献の調査・選択をさせるが、研究室配属の上

級生（4年生および大学院生）に文献の調査・選択のみならず、和訳の添削を行わせるなど受講生のサポートをさせることにより、研究室分属学生間のコミュニケーションを深めさせるように配慮している。

（2）文献の紹介を行った際には、教員や他の学生からの質問に十分に答えられないことが多いが、答えられなかった質問について発表後に調査を行い、Google Classroomに回答を投稿させることで、より深く文献の内容を理解させるように促している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
専攻演習（2単位 毎年開講） 4年生 （2025年度）
担当コマ数：30コマ

②内容・ねらい（自由記述）

本演習科目は、4年生に当該研究分野に関連する文献を講読させ、討論することによって個々の文献の背景や内容の理解を深めさせようとするものである。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

（1）基本的には各受講生（4年次生）自身に文献の調査・選択をさせるが、研究室配属の上級生（大学院生）に文献の調査・選択のみならず、和訳の添削を行わせるなど受講生のサポートをさせることにより、研究室分属学生間のコミュニケーションを深めさせるように配慮している。

（2）文献の紹介を行った際には、教員や他の学生からの質問に十分に答えられないことがしばしばあるが、答えられなかった質問について発表後に調査を行い、Google Classroomに回答を投稿させることで、より深く文献の内容を理解させるように促している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業論文（4単位 毎年開講） 4年生 （2025年度）

②内容・ねらい（自由記述）

本科目では、当該研究分野における研究に取り組み、論文を完成させることを目的とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

研究室で行うことになる基本的な実験操作を3年次の仮分属時から学ばせることにより、上級生とのコミュニケーションを深めさせ、さらに4年次の卒業論文研究にスムーズに移行できるように配慮している。また、研究の進行状況について要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ発表させる中間報告を数回程度実施している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
食品機能化学（2単位 毎年開講） 博士前期課程1・2年次 （2025年度）
担当コマ数：8コマ

②内容・ねらい（自由記述）

近年、嗜好性（味や食感など）に関わる二次機能性成分および生体機能の維持や増進に機能する三次機能性成分が注目されている。本講義では、それらの食品機能や関連する成分の化学的・生理機能的特性について、最近の研究動向を交えて講述・討論する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

講義の前半部分では食品機能ならびにタンパク質に関する概説を行うとともに、後半において筋肉タンパク質、結合組織タンパク質、植物タンパク質、乳および卵タンパク質の機能に関する最新の研究内容を解説した。これらと並行して、食品の二次機能（主にテクスチャー）に関連する英語文献を配布して、これを教員と受講者で輪読し、重要な点については他の参考文献も参照しながら解説した。講義内容および教材として用いた英語文献に関するレポート試験を行い、この結果と輪読時の発表状況などをあわせて評価を行った。

社会人受講生およびやむを得ない理由のため出席できない受講生を対象とするオンデマンド

授業に対応した。具体的にはすべての対面授業について Zoom 録画をとり、これを授業の 1~2 日後に Google Classroom に掲載して視聴させるとともに、掲載した課題への回答をもって出席とした。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

海洋生物資源利用学専攻演習Ⅰ (2 単位 毎年開講) 博士前期課程 1 年次
(2025 年度) 担当コマ数: 30 コマ

②内容・ねらい (自由記述)

海洋生物のもつ有用成分の抽出、機能、利用方法等に関連する諸問題を解決するための基礎を修得させる。さらに、国内外の最新の情報を迅速に取り入れる能力および必要な情報を整理して発表し、討論する能力を養成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

各自の研究テーマに関連する学術論文を検索・熟読させるとともに、プレゼンテーション能力や自主性の向上を目的として、当該論文の要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ、講義時にそれらを資料として発表させる。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

海洋生物資源利用学専攻演習Ⅱ (2 単位 毎年開講) 博士前期課程 2 年次
(2025 年度) 担当コマ数: 30 コマ

②内容・ねらい (自由記述)

海洋生物のもつ有用成分の抽出、機能、利用方法等に関連する諸問題を解決するための基礎を修得させる。さらに、国内外の最新の情報を迅速に取り入れる能力および必要な情報を整理して発表し、討論する能力を養成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

各自の研究テーマに関連する学術論文を検索・熟読させるとともに、プレゼンテーション能力や自主性の向上を目的として、当該論文の要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ、講義時にそれらを資料として発表させる。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

海洋生物資源利用学専攻実験Ⅰ (4 単位 毎年開講) 博士前期課程 1 年次
(2025 年度)

②内容・ねらい

海洋生物資源の栄養機能、嗜好性機能、生体調節機能などに関連して、その社会的背景や意義・必要性をふまえて研究課題を設定して研究に取り組み、課題を解決する能力を身につける。また、修士論文中間発表会での発表や論文の取りまとめを通じて、プレゼンテーション能力を高める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究の進行状況について年に数回程度要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ発表させている他、学会において各自の研究内容を積極的に発表させ、外部からのコメントや批判を取り入れながら研究を進める。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

海洋生物資源利用学専攻実験Ⅱ (4 単位 毎年開講) 博士前期課程 2 年次
(2025 年度)

②内容・ねらい

海洋生物資源の栄養機能、嗜好性機能、生体調節機能などに関連して、その社会的背景や意義・必要性をふまえて研究課題を設定して研究に取り組み、課題を解決する能力を身につける。

また、修士論文発表会での発表や論文の取りまとめを通じて、プレゼンテーション能力を高める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究の進行状況について年に数回程度要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ発表させている他、学会において各自の研究内容を積極的に発表させ、外部からのコメントや批判を取り入れながら研究を進める。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

海洋生物資源利用学特別演習（4単位 毎年開講） 博士後期課程1～2年次
（2025年度） 担当コマ数：30コマ

②内容・ねらい（自由記述）

博士前期課程における専攻演習に引き続き、博士後期課程の学習の中心である博士論文の作成に向けて、海洋生物資源の生体構成成分の構造と機能およびその利用に関する研究発表や研究論文の批判的検討を通じて、基礎理論、方法論および研究成果に対する理解の深化を図る。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

各自の研究テーマに関連する学術論文を検索・熟読させるとともに、プレゼンテーション能力や自主性の向上を目的として、当該論文の要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ、講義時にそれらを資料として発表させる。

(2)その他の教育活動

①非常勤講師窓口教員

・化学Ⅰ（2021年度～）

②ゲストスピーカーの選定（細井准教授と協働）

・大学院専門特別講義Ⅱ「三方五湖における漁業の現状と課題、そして将来像について」（海山漁業協同組合代表理事組合長 田邊 善治氏、鳥浜漁業協同組合代表理事組合長 田邊喜代春氏）、2025年10月30日（木）、小浜キャンパス大講義室1（対面開催）

③保護者懇談会出席（2025年4月7日）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし） キダイ鱗からの機能性成分の効率的回収技術の開発 - コラーゲンと無機成分の分離法を中心に - 、 <u>水田尚志</u> （福井県立大学海洋生物資源学部）、テクノふくい No. 111, p 14-15 (2025)	【1 本】
④学会発表等 1) さばへしこ脂質成分の経時的変動と脂肪酸ヒドロキシ脂肪酸の消長、吉田孝彰・今道力敬・下畑隆明・ <u>水田尚志</u> ・横山芳博・細井公富（福井県大海洋生資）、令和7年度日本食品科学工学会大会（2025年8月、日本大学湘南キャンパス） 2) マサバ飼料におけるヒスチジン添加の有効性、山越佑馬・細井公富・ <u>水田尚志</u> ・横山芳博・佐藤秀一（福井県大海洋生資）、令和7年度日本水産学会中部支部大会（2025年11月、働く婦人の家、福井県小浜市） 3) サケ鼻軟骨のコラーゲン分子に関する生化学的研究、三谷海斗・今道力敬・細井公富・横山芳博・ <u>水田尚志</u> （福井県大海洋生資）、令和7年度日本水産学会中部支部大会（2025年11月、働く婦人の家、福井県小浜市） 4) マサバへしこ発酵における成分変化と嗜好性の関係、吉田孝彰・今道力敬・下畑隆明・ <u>水田尚志</u> ・横山芳博・細井公富（福井県大海洋生資）、令和7年度日本水産学会中部支部大会（2025年11月、働く婦人の家、福井県小浜市）	【4 件】
⑤その他の公表実績 1) 2025 年度 福井県立大学研究シーズ集 ・「キダイ加工残滓の有効利用を推進する」 <u>水田尚志</u> ・細井公富・今道力敬、p50（2025 年度版にて新規掲載） 以下は福井県立大学研究シーズ集 2023 年度版より継続掲載 ・「低利用の水産物をコラーゲン資源へ」 <u>水田尚志</u> 、p51 ・「ナマコ類の新しい利用の道を探る」 <u>水田尚志</u> 、p52	【1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
①共同研究（株式会社リナイス） 600 千円 研究代表者（2025 年度） 「サケ鼻軟骨 XI 型コラーゲンの分子多型性に関する研究 - 各分子型の単離法の確立とサブユニット組成の解明 - 」 ②戦略的課題研究推進事業（大型枠） 2,386 千円 研究代表者（2025 年度） 「水産廃棄物を有用資源化し地域ブランド品の創出を目指す - キダイ加工残滓に含まれる機能性成分の探索と実用化研究 - 」	
(3)特許等取得	

(4)学会活動等

①学会での役職

- ・日本水産学会会員（昭和 63 年 4 月～現在に至る）
- ・日本生化学会会員（平成 4 年 4 月～現在に至る）
- ・日本比較生理生化学会会員（平成 4 年 4 月～令和 7 年 3 月）
- ・日本食品科学工学会会員（平成 22 年 4 月～現在に至る）

②論文の審査

- ・Food Chemistry 誌（エルゼビア） 2 件（審査依頼日：10 月 30 日および 11 月 21 日）

5. 地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会

1)「杉田玄白賞」審査委員会委員（2022 年 4 月～）

- ・第 1 回審査会（2025 年 6 月 17 日、小浜市役所）
- ・第 2 回審査会（2025 年 9 月 24 日、小浜市役所）
- ・受賞者との懇親会（2025 年 12 月 12 日、ホテルせくみや）
- ・表彰式・記念講演会（2025 年 12 月 13 日、小浜市街の駅 旭座）

2)全国農学系学部長会議会員（2022 年 4 月～）

- ・第 152 回全国農学系学部長会議（2025 年 6 月 2 日～3 日、一橋講堂〔東京〕、当番校：茨日本大学生物資源科学部）
- ・第 153 回全国農学系学部長会議（2025 年 11 月 6 日～7 日、ANA クラウンプラザホテル札幌、当番校：酪農学園大学農食環境学群・獣医学群）

3)全国水産・海洋系学部等協議会会員（2022 年 4 月～）

- ・第 24 回全国水産・海洋系学部等協議会（2025 年 6 月 4 日、東京海洋大学）：学内用務のため学科長が代理出席

4)全国公立大学協会農学部会会員

- ・第 48 回全国公立大学協会農学部会（2025 年 9 月 11 日、福井県立大学永平寺キャンパス）

5)原子力発電小浜市環境安全対策協議会常任委員（2022 年 4 月～）

- ・第 90 回常任委員会および委員研修会（2025 年 12 月 10 日、働く婦人の家）

6)原子力発電若狭町環境安全対策協議会委員（2022 年 4 月～）

- ・原子力発電若狭町環境安全対策協議会（2025 年 11 月 26 日、若狭町中央公民館）

7)福井県水産研究評価会議委員（2022 年 4 月～）

- ・令和 7 年度水産試験研究評価会議（2025 年 9 月 8 日、福井県水産会館 6 階大ホール、本会議において座長を務めた）

8)ふくい水産振興センター副センター長

- ・ふくい水産振興センター通常総会（2025 年 6 月 23 日、福井県水産会館 6 階大ホール、当日は学内用務のため欠席）

9)高大連携協議会委員

- ・令和 7 年度高大連携協議会（2025 年 6 月 11 日、福井県立大学小浜キャンパス）

10)若狭地域産学官水産連絡会議幹事代表（2022 年 4 月～）

- ・令和 7 年度若狭地域産学官水産連絡会議幹事会（2025 年 4 月 21 日、福井県立大学かつみキャンパス）
- ・令和 7 年度若狭地域産学官水産連絡会議総会（2025 年 6 月 10 日、福井県立大学かつみキャンパス）

11)福井県立若狭高等学校海洋探究会議委員（2024 年 4 月～）

- ・第 1 回海洋探究会議（2025 年 6 月 10 日開催、福井県立若狭高等学校 海洋キャンパス）
- ・第 2 回海洋探究会議（2025 年 11 月 11 日開催、福井県立若狭高等学校 海洋キャンパス）
- ・第 3 回海洋探究会議（2025 年 2 月 7 日開催予定、福井県立若狭高等学校 海洋キャンパス）

②国・地方公共団体等の調査受託等

③（公共性の強い）NPO-NGO 法人への参加

④（兼業規程で業務とみなされる範囲内での）企業等での活動

1) 株式会社リナイス

- ・コラーゲンの分析に関する技術協力（2025 年 10 月）

2) 株式会社ホルス

- ・コラーゲンの分析に関する調査協力（2025 年 7 月）

3) 株式会社テクノブル

- ・コラーゲンの回収に関する技術協力（2025 年 9 月）

⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

1) 県立大学小浜キャンパスを育てる会

- ・会報への学部長挨拶の掲載（2025 年 4 月）
- ・計画会議への参加（2025 年 5 月 16 日、福井県立大学小浜キャンパス）
- ・総会および講演会への参加（2025 年 6 月 17 日、働く婦人の家 3 階大ホール）

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講

⑦その他

1) 視察の対応

- ・福井県議会 民主・みらい会派 視察（福井県立大学かつみキャンパス、2025 年 5 月 13 日）
- ・小浜市・若狭町総合振興協議会 視察（福井県立大学かつみキャンパス、2025 年 7 月 24 日）
- ・水産庁 視察（福井県立大学かつみキャンパス、連携協定関連事業の視察、2025 年 10 月 21 日）

2) 地域からの要望対応

- ・嶺南振興局からの相談（三方五湖周辺の臭気問題について、2025 年 12 月 19 日）

6. 大学運営への参画

(1)補職

①海洋生物資源学部長（2022 年 4 月～）

【主な業務内容】

- 1) 教育研究審議会、全学ミーティングおよび部局長会議への出席
- 2) 学部・学科運営体制
 - ・学部・学科内の各種委員会、担当者の人員選定、構成を行った。
- 3) 学部教授会の運営
 - ・定例学部教授会（年間 11 回）の議長を務めた。]
- 4) 教育研究委員会への出席
 - ・定例会議（年間 10 回）において委員長（議長）を勤めた。
- 5) 入試本部会議への出席

②大学院生物資源学研究科 研究科長（2025 年 4 月～）

【主な業務内容】

- 1) 研究科教授会および学科長会議への参加
- 2) 生物資源学研究科のカリキュラム検討・改訂

(2)委員会・チーム活動

①全学委員会

- ・教育研究審議会委員
- ・教育研究委員会委員長
- ・教育研究委員会 FD 部会オブザーバー
- ・共通カリキュラム全学会議委員
- ・大学院委員会委員
- ・発明委員会委員
- ・利益相反マネジメント委員会委員
- ・遺伝子組換え実験安全委員会施設管理者
- ・入試本部委員
- ・輸出管理委員会委員（部局等輸出管理責任者）
- ・海洋生物資源学臨海研究センター運営会議 議長

②学部委員会等

- 1) 学部将来計画委員会
- 2) 学部予算委員会
- 3) 高大連携委員会（委員長）
- 4) 教員評価委員会（委員長）
- 5) 海洋生物資源学臨海研究センター運営連絡会議
- 6) 昇任推薦委員会（委員長）
- 7) 非常勤講師審査委員会（委員長）
- 8) 特任講師審査委員会（委員長）
- 9) 学部カリキュラム WG
- 10) 教員選考委員会

③海洋生物資源学科委員会等

- 1) 学科将来計画委員会
- 2) JABEE 委員会委員
- 3) 備品更新費配分担当
- 4) 学科カリキュラム WG

(3)学内行事への参加
1) 全学ミーティングへの参加 ・第1回(2025年4月24日) ・第2回(2025年10月8日) 2) オープンキャンパスへの参加 ・オンデマンド型(学部長として動画に参加) 3) 第33回白樺祭参加(2025年10月4日、開会あいさつ) 4) 福井県立大学同窓会および記念講演会への参加(2025年10月18日) 5) 授業公開および検討会への参加(2025年12月9日)
(4)その他、自発的活動など